

紙レジ袋づくり報告

只見中3年生が知事表敬

只見町の只見中3年生は6日、県庁を訪れ、新聞紙や米袋を再利用した環境に優しい「紙レジ袋」の取り組みを内堀雅雄知事に報告した。

同校は環境問題など世界的な課題に視野を広げようと、海洋教育に力を入れて

いる。昨年7月に新潟県の海岸で実施したごみ拾い活動で、海外から流れ着いたごみの多さに驚いた生徒が自分たちでできることを話し合い、紙レジ袋づくりを始めた。袋は現在町内7店舗で利用されている。

訪れたのは、山田夢空さん、鈴木莉子さん、印南蒼羽さんの3人。「現状を多くの人に知ってもらい、取り組みを町や県に広げたい」「地元の米焼酎製造・販売『ねっか』にも使ってもらい、ねっかの知名度で取り組みを世界に広げたい」などと内堀知事に語った。

内堀知事は「小泉進次郎環境相に紹介されて取り組みを知った。子どもや孫の世代に良い環境を引き継ぐため輪を広げてほしい」と激励した。



内堀知事に紙レジ袋などの取り組みを報告する只見中3年生